

# 磯焼け対策緊急整備事業 —漁場環境保全創造事業—

中西達也

播磨灘南部地区では平成18～19年度に、阿南地区では平成21年度に、着生基質となる自然石を海底面にマウンド状に設置し、嵩上げして光量を確保することで、カジメ・ガラモ場を造成した。

これらの人工藻場において、海藻の繁茂を助長し、藻場を良好な状態に維持するため、平成19年度から平成22年度にかけて、造成場所の一部において着生基質の更新、母藻の供給、及び食害生物の駆除を実施し、その後の状態をモニタリングした。

## 材料と方法

## 1. 播磨灘南部地区

平成19年に実施したカジメの基質更新（大浦工区）及びアカモクの母藻移植（栗田工区），平成21年2月に実施したアカモクの母藻移植及び基質更新（櫛木工区）後の変化について，定期的に海藻の現存量などをSCUBAにより調査をした。

## 2. 阿南地区

平成21年度に造成した、福村、中林の各工区の藻場における



写真1. 大浦工区のカジメ藻場（平成23年3月29日）

いて、定期的に海藻の現存量および食害生物の生息状況をSCUBAにより調査した。

## 結果と考察

## 1. 播磨灘南部地区

### (1) 大浦工区

7~9月の調査では、生育するカジメ、ウミウチワの上に



写真2. 粟田工区のカジメ、アカモク藻場（平成23年3月23日）

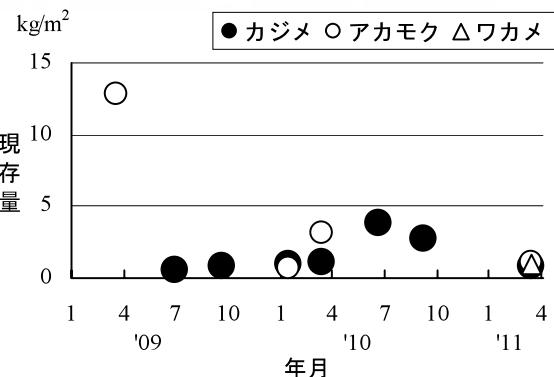


図2. 粟田工区のカジメ、アカモク及びワカメ現存量の推移

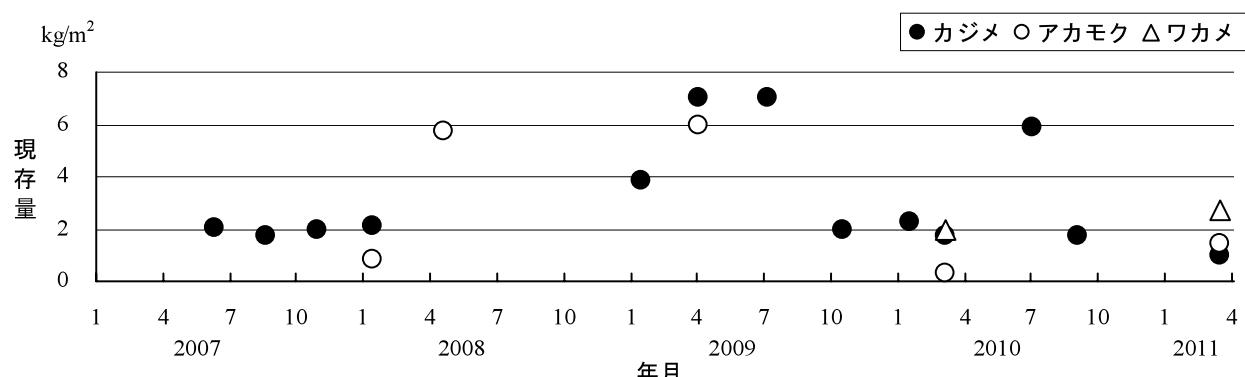


図1. 大浦工区のカジメ、アカモク及びワカメ現存量の推移

浮泥の堆積がみられたが、3月にはアカモク、カジメ及びワカメが繁茂した。藻場造成地のほぼ全域でカジメが着生していた（写真1、図1）。

#### (2) 粟田工区

6月に、カジメ、ウミウチワが生育し、1～3月にはアカモク、ワカメが繁茂した（写真2、図2）。

#### (3) 櫛木工区

9月に、生育するカジメ、ウミウチワの上に浮泥の堆積がみられた。しかし、3月にはアカモク、ワカメが繁茂した（写真3、図3）。

播磨灘南部地区では、一部、夏場に浮泥の堆積がみられたものの、藻場が良好に維持されていると考えられた。

播磨灘南部地区における本事業は平成22年度をもって終了する。

## 2. 阿南地区

#### (1) 福村工区

9月に、生育するカジメ、ガラモ幼体の上に浮泥の堆積がみられた。3月にはホンダワラを主体とするガラモが繁茂した（写真4、図4）。

#### (2) 中林工区

9月に、ガラモ幼体が多数みられた。3月にはホンダワラを主体とするガラモが繁茂した（写真5、図5）。



写真3. 櫛木工区のカジメ、アカモク藻場（平成23年3月23日）

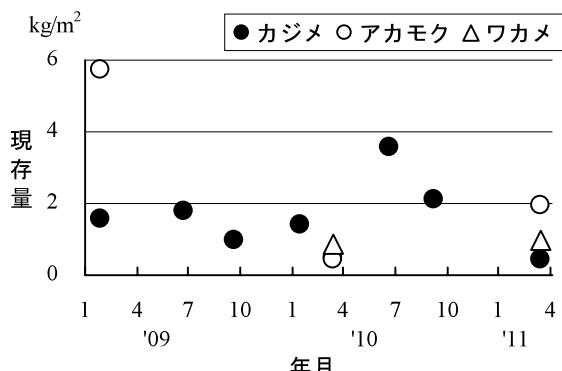


図3. 櫛木工区のカジメ、アカモク及びワカメ現存量の推移

阿南地区では、いずれの工区も食害動物の生息数は少なく、食害が問題となる場所は見られなかった。

今後もモニタリングを継続し、食害生物の駆除など、必要な対策がないか検討する。



写真4. 福村工区のカジメ、ガラモ場（平成23年3月9日）

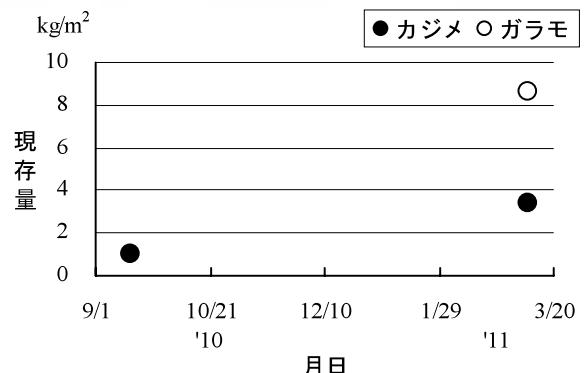


図4. 福村工区のカジメ、ガラモ現存量の推移



写真5. 中林工区のガラモ場（平成23年3月10日）

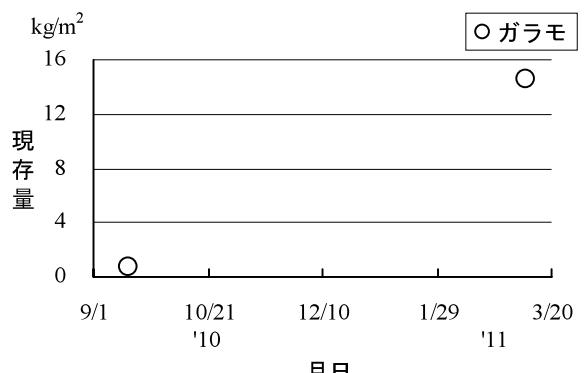


図5. 中林工区のガラモ現存量の推移